

「やればできる」ということは

よく先生などに「君はやればできるんだから、がんばりなさい。」と言われて、「そうか、実は自分には隠された力があるんだ。」と自尊心をくすぐられたことがあるのではないのでしょうか。はたしてその言葉が真実なのか、それともその気にさせるための詭弁なのか、それは一概には言えません。

高校の数学で論理に関する命題の勉強をします。「AならばBである。」という論理命題に対して、「BでないならばAではない。」というのを対偶（たいぐう）といいます。このもとの命題が正しいとき、対偶もまた正しいことになります。

例えば、「2ならば偶数である。」という命題に対して、「偶数でないならば2ではない。」が対偶であり、どちらも正しいことになります。

さきの命題は、「勉強は努力するならば、成果が現れる。」ということでしょうが、この対偶は「勉強の成果が現れないならば、努力をしていない。」となります。もちろん最初の命題が正しいのならば、この対偶も正しくなります。どちらも正しいことになりますが、対偶の方がグサッとくるのではないのでしょうか。

つまり「君はやればできる。」と言われている人は、「おまえは努力していない。」と言われていと思うべきです。

そもそも私は最初の命題「努力をすれば成果が現れる。」が常に正しいとは思っていません。つまり「努力をしても満足する結果は出ないことのほうが多い。」というのが実は真実のように思います。こういうと「それなら努力する気がなくなるじゃないか。」という人もいるでしょう。でも、そんな理由で努力をしないのならば、どう転んでも成果はでないわけですから、しょせんその人にとって、その程度の夢でしかなかったと言うことなのでしょう。

努力をし続けたからとしても届かないかもしれないのに、そんな努力さえもしないのであれば夢なんか叶うはずがありません。努力とは、可能性をゼロにしないためにするものだと言ひなさい。

天才や秀才といわれるほんの一握りの人以外、ほとんどの人は「一を聞いて一を知り、翌日にはその一部を忘れる。」普通の人なのです。だから努力をし続けることが大切なのです。

自分が「やればできる。」と思っている人、そう思うのなら何よりもまず始めなさい。夏休みです。何かのきっかけを待ちたい気持ちもわかりますが、歩き始めるからこそゴールが近づくのです。

高森台中学 1 学期期末テスト結果

		英語	数学	理科	社会	国語	5 科目計
中 3	塾生平均	93.1	96.0	75.3	86.5	91.0	441.9
	学年平均	69.6	70.8	52.0	64.7	69.6	330.9
中 1	塾生平均	97.4	85.4	60.6	73.0	80.1	396.6
	学年平均	70.5	61.3	44.0	54.8	70.6	302.3

中 2 は人数が少ないため、表からは除外しています。